

2

健康経営都市

2.1 宣言

岩見沢市は、平成 28 年 6 月に、全国の自治体で初めて、健康経営都市宣言の認定を NPO 法人健康経営研究会より受けました。

健康経営とは、「企業が従業員の健康に配慮することによって、経営面においても大きな成果が期待できる」との基盤に立ち、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践することを意味しています。

市は、「健康経営」を、まちづくりのテーマにすることにより、住民の健康を「守る」だけでなく「いきいき活動する」市民づくりを実践するとともに、地元企業の健康経営の取組みを支援していくことにより、まち全体のポテンシャルを引き出し、「自立した自治体づくり」を目指しています。

また、平成 26 年度より北大 COI と連携し、健康で快適なコミュニティ形成に向けた取組みを行ってきました。平成 28 年 1 月に実行計画として策定した「総

合戦略」の重点施策には、「市民ひとり一人が健康で生きがいを持ってくらせる健康経営を実践するまち」を掲げています。

市が、健康経営研究会ならびに北大 COI および北大 COI 参画企業と連携して「健康経営都市」を構築・推進する取組みについて、NPO 法人健康経営研究会が「健康経営都市を推進する自治体」として認定し、平成 28 年 6 月 27 日に宣言認定証の授与式を行いました。

2.2 ポリシー

「人もまちも企業も元気で健康」をテーマに、医療や介護等の公的サービス、健康診査やがん検診などの「まもる」健康、市民自ら健康づくりを進める「つくる」健康、環境づくり・人・地域・企業や啓発などを通じてこれらを「つなぐ」健康に基づく事業を実施し、健康経営都市岩見沢市を目指します。



2.3 施策

2.3.1 母子保健

少子化等に伴い、子育て環境が変化する中で、安心して子どもを産み、子どもがより健やかに育まれるためには、地域を含めた各関係機関が連携し、切れ目のない母子保健サービスを提供されることが重要です。

母子保健事業は、親が地域で安心して子どもを産み育てることができ、子どもが健やかに育つことができるよう健康診査、健康教育、健康相談、訪問指導などを行っています。

母子健康手帳交付時に妊婦一般健康診査受診票と超音波検査受診票を交付し、妊婦健診を助成しています。令和元年度からは、産婦健康診査の助成も開始

し、妊産婦の健康の保持、増進を図っています。

新生児聴覚検査は令和元年度より、難聴児の早期発見、早期療育を図り、聴覚障害による音声言語発達等への影響を最小限に抑えることを目的に検査費用の助成を開始しています。

乳幼児健診では、問診や診察、歯科健診のほか、栄養指導、歯科指導なども実施し、疾病の早期発見、健全な育成、発達を促す援助を行い、乳幼児の健康の保持増進に努めています。

年々出生数が減少していることに伴い、受診数も減少していますが、受診率はどの健診も95%以上を維持できています。未受診児に対しては、電話、手紙、訪問による受診勧奨を行っています。

令和元年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、乳幼児健診を中止した月があり、受診数は減少し

区分	実施事業
健康診査	<ul style="list-style-type: none"> ● 妊産婦一般健康診査受診票等の交付 ● 新生児聴覚検査(費用助成) ● 先天性股関節脱臼検査 ● 4～5 か月児健診 ● 8～9 か月児健診 ● 1歳6 か月児健診 ● 3歳児健診
健康教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 母親学級 ● ペア学級(両親学級) ● 事後指導教室 ● 育児サークル等への健康教育
健康相談	<ul style="list-style-type: none"> ● 母子健康手帳の交付 ● 妊産婦健康相談 ● 乳幼児健康相談 ● 発達相談 ● 栄養相談 ● 家族健康手帳アプリでの相談 ● ばぶばぶ、ベビカフェ、あそびのひろばでの相談
訪問指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳児家庭全戸訪問事業 ● 養育支援訪問事業 ● 未熟児訪問指導 ● 妊産婦乳幼児訪問指導
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 不妊・不育症治療費助成事業 ● 産後ケア事業 ● フッ素塗布事業

【健康診査事業実績】

事業名	H29年度		H30年度		R1年度	
	人数	受診率	人数	受診率	人数	受診率
妊婦健康診査	5,250回	—	4,955回	—	4,658回	—
産婦健康診査	—	—	—	—	459回	—
新生児聴覚検査	—	—	—	—	384人	98.7%
先天性股関節脱臼検査	416人	97.2%	413人	94.9%	328人	96.8%
4～5 か月児健診	434人	98.9%	417人	97.9%	345人	99.1%
8～9 か月児健診	453人	96.4%	431人	99.3%	350人	98.3%
1歳6 か月児健診	479人	98.0%	459人	98.1%	373人	97.9%
3歳児健診	507人	97.5%	497人	98.2%	426人	96.8%



図 2.3.1-1：4～5 か月児健診風景

【健康教育実績】

事業名	H29 年度	H30 年度	R1 年度
母親学級	164 人	142 人	132 人
ペア学級(両親学級)	69 組	66 組	69 組
事後指導教室	296 人	96 人	85 人
育児サークル等への健康教育	94 人	91 人	53 人



図 2.3.1-2：ペア学級の様子

ています。

母親学級は、隔月に3回コースで実施しています。
ペア学級は、隔月に実施し、ご夫婦で参加していただき、妊婦体験、沐浴、着替え、抱っこを実習しています。

事後指導教室は、保護者の方が安心して育児に取り

組めるよう、月1回教室を実施しています。平成30年度からは月2回実施していたうち1回を子育て総合支援センターで担うようになり、参加者数も減少しています。

育児サークル等への健康教育は、ファミリーサポートセンター、図書館のベビカフェ等で実施しています。

【健康相談実績】

事業名	H29 年度	H30 年度	R1 年度
母子健康手帳の交付(妊娠届出数)	457 人	373 人	398 人
妊産婦健康相談	98 人	34 人	51 人
乳幼児健康相談	609 人	621 人	629 人
発達相談	308 人	281 人	225 人
栄養相談	54 人	62 人	40 人
家族健康手帳アプリでの相談	52 件	78 件	131 件
その他相談	101 人	107 人	168 人

【訪問指導実績】

(延訪問数)

事業名	H29 年度	H30 年度	R1 年度
乳児家庭全戸訪問事業	258 件	250 件	223 件
養育支援訪問事業	258 件	185 件	176 件
未熟児訪問指導	31 件	37 件	30 件
妊産婦乳幼児訪問指導	267 件	217 件	141 件

【その他実績】

事業名	H29 年度	H30 年度	R1 年度
不妊治療費助成事業	92 件	72 件	72 件
不育症治療費助成事業	0 件	0 件	0 件
産後ケア事業	—	—	11 件
フッ素塗布事業	386 件	351 件	317 件

母子健康手帳の交付時には保健師が面談を行い、体調の確認、相談、サービス等の情報提供を行っています。

発達相談は、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士により、心理面、言語面、運動面等の相談を受け、発達を促す助言を行っています。

家族健康手帳アプリでの相談は、相談内容によって保健師、管理栄養士、歯科衛生士などがアプリを使って相談にのっています。24時間いつでも相談できる手軽さがあり、年々相談数は増加しています。

生後4か月までの赤ちゃんがいる全家庭に家庭訪問を実施し、お子さんの体重を測定したり、お母さんの相談にのったり、予防接種や健診の説明、支援サービスの紹介を行っています。

出生数が年々減少していることに伴い、家庭訪問数も減少しています。

育児不安を抱えて退院してくる産婦も多いことから、医療機関とも連携をとりながら、今後も訪問事業を実施していきます。

経済的負担の大きい保険適用外の不妊治療、不育症治療を受けているご夫婦に治療費の一部を助成し、安心して妊娠・出産できるよう支援しています。令和元年度には特定不妊治療費の助成額を増額と一般不妊治療の助成回数の制限をなくしたことにより、経済的負担が軽減されると思われます。

産後ケア事業は、令和元年度より開始された事業で、岩見沢市立総合病院産婦人科に委託し、乳房ケア、育児相談を実施しています。産後は乳房トラブルや育児不安を抱えている方が多いため、産後の不安を解消できていると思われます。

【市独自事業：母子健康調査】※詳細は別途記載

低出生体重児の減少や未来の子どもたちにより環境を与えることなどを目的とした世界に類を見ない取り組みとして、「母子健康調査」を平成29年6月から開始しています。

2.3.2 成人関係

2.3.2.1 健康診査

健康診査は、疾病を早期発見し早期治療に結び付けること、また、自分自身の健康状態を確認し日頃からの健康管理に役立て健康寿命延伸に向けてことを目的に取り組んでいる事業です。内容は、生活習慣病等の早期発見と内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防を目的とした健康診査、そして死因の3割を超え増加し続けているがんの早期発見・早期治療を目的に、胃・肺・大腸・前立腺・子宮・乳の各種がん検診を実施しています。

特にがん検診では、平成28年度より自己負担金を道内都市の中でもトップレベルであるワンコイン以下



図 2-3-2-1：集団健診の様子

の低料金に維持するとともに、国民健康保険加入者の自己負担金を無料化しています。また、働き盛り世代も受けやすい土日健診の設定、協会けんぽとの連携による特定健診とがん検診の同時開催、インターネットによる24時間可能な健診予約等、受けやすい健診環境の整備に努めています。

その他、市ホームページやSNSを活用した周知、保健推進員の協力による地域住民への啓発、健診未受

診者への個別通知、生命保険会社やいわみざわ農協など市内企業や関係機関との連携による周知等、さまざまな取組みによる健診受診の啓発に努めています。

また、日本人に多い胃がんの減少を図る取組みとして、平成28年度より中学生を対象に胃がんの主な原因であるピロリ菌検査と除菌費用の全額助成、平成29年度からは40歳以上を対象にピロリ菌検査費用の一部助成を開始しています。

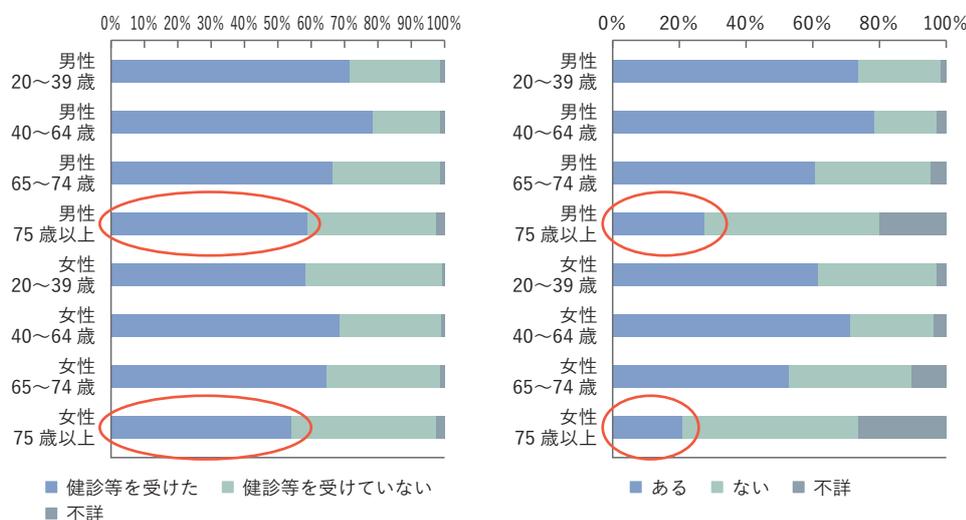
【健診対象・健診料金等】

区分	健診項目	検査方法	対象	健診料金	
				国保・生保・後期高齢・非課税	その他
健康診査	健康診査	血液・尿・診察等	40歳以上の生保・非課税・後期高齢	無料	無料 (協会けんぽのみ)
	歯科健診	歯科健診・指導	成人・後期高齢	無料	
がん検診等	胃がん	バリウム検査	40歳以上	無料	500円
	肺がん	胸部X線撮影			100円
	大腸がん	便潜血2日法			300円
	前立腺がん	血液検査			500円
	子宮頸がん	内診・細胞診	20歳以上の女性		500円
	乳がん	マンモグラフィ	30歳以上の女性		500円
	ピロリ菌	血液検査	40歳以上		1,000円(生保無料)

【各種健診受診者数】

健診項目		H29	H30	R1
健康診査	健康診査	793人	771人	788人
	歯科健診	643人	633人	645人
がん検診等	胃がん	1,987人	1,908人	1,753人
	肺がん	2,526人	2,537人	2,362人
	大腸がん	2,508人	2,577人	2,371人
	前立腺がん	842人	804人	807人
	子宮頸がん	1,153人	1,279人	1,562人
	乳がん	1,507人	1,502人	1,511人
	ピロリ菌	1,177人	655人	394人

【健診等受診状況の年代別比較】

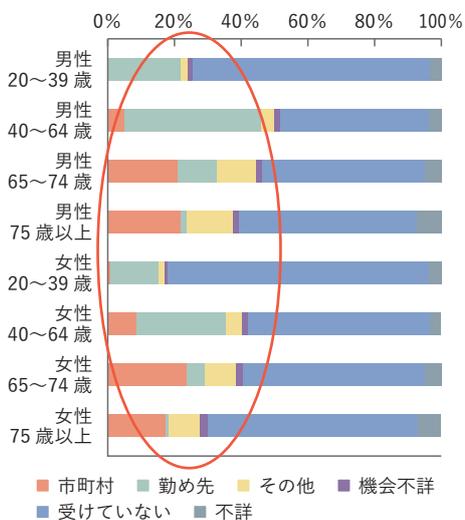


健診等の受診率(不詳除く)は、全国調査と比較して男女とも75歳以上で低い

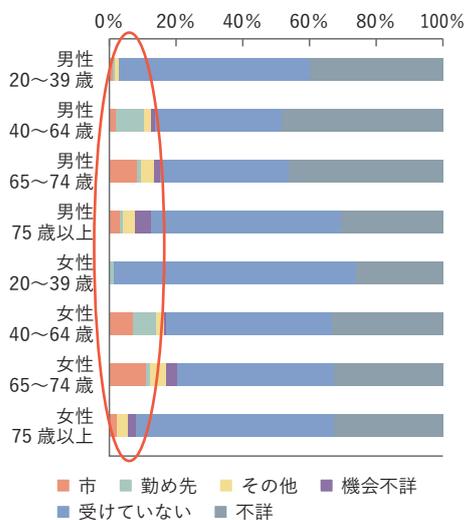
全国の場合
(H28年国民生活基礎調査)

岩見沢市の状況
(H30年健康と生活に関する意識調査)

【肺がん検診受診状況の年代別比較】



全国の状況
(H28年国民生活基礎調査)



岩見沢市の状況
(H30年健康と生活に関する意識調査)

肺がん検診受診率(不詳除く)は、全国調査と比較してすべての性・年齢で低く、すべてのがん検診で同じ傾向にある

市では、受けやすい健診環境の整備や様々な啓発に努めていますが、各種健診受診者数については横ばい状態が続いています。平成30年度に実施した「岩見沢市健康と生活に関する意識調査」における「健診受診状況の年代別比較」では、市民の健診等の受診は全国調査と比較して男女とも75歳以上の高齢者で低い状況です。「肺がん検診受診状況の年代別比較」では、男女ともすべての年齢層において低い状況で、他のがん検診においても同様の傾向が見られます。市の健診以外で受診される方もいることから、正確な健診受診率を把握することはできませんが、国が掲げる受診率目標である50%には達していないことが推測さ

れます。

受診する人が増えれば、それだけ多くの命が助かることから、若い世代からの健康づくりに向けた意識の醸成を目指すとともに、さまざまな年齢層に訴える効果的な勧奨方法を検討し受診者の増加を目指していくことが必要です。

さらに、健診の質の管理と受けやすい体制づくりに努め、市民が安心して気軽に受診できる健診実施、健康ポイントによるインセンティブの付与等、楽しみながら健康づくりにつながる健診の取組みを推進していきたいと考えています。

2.3.2.2 健康教育

岩見沢市では、市民の皆様に健康づくりや病気の予防に関する正しい知識を持ち生活習慣を改善し、実行してもらえるように、健康教室や講座を開催しています。内容として健康教室事業、健康体操推進事業、教育大学連携事業と3つに分けることができ、健康教室事業としては身近な地域や職場などで健康の話を聞くことができるお茶の間健康教室があります。また、健康的な運動を知りたい方にはからだスッキリ健康運動教室、健康的な食事が知りたい方にはフードデイと興味関心に合わせて教室を選べるようにしています。健康体操推進事業は、市のオリジナル健康体操である



図 2-3-2-1：集団健診の様子

ひゃっぴい体操を普及するための教室の開催や体操を普及の役割を担うサポーターの育成のための講座や各種イベントでのひゃっぴい体操の実演を行っております。体操の普及をとおして市民の方の健康的な運動習慣の形成の役割を担っています。教育大学連携事業は北海道教育大学岩見沢校と連携し、大学のノウハウや人的資源を活かし、特に女性のライフステージに焦点をあてた事業を展開し、好評を博しています。

健康教育事業の参加者数は年度によって増減がありますが、一定数参加いただいている状況にあります。令和元年度は、年度末に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、ほとんどの事業が中止になったため、開催回数参加人数とも減少傾向となりました。参加者数の推移を見ていくと、身近な地域や職場で健康講話を行うお茶の間健康教室については、平成29年度から平成30年度にかけて、開催回数、参加人数とも増加し、令和元年度にかけても回数、人数とも維持できている状況です。フードデイについても参加数は維持できしており、好評であることが伺えます。教育大と連携し実施している骨盤ケア講座、女性のための健康力アップ講座、親子運動教室全て、若干の数の変動はあるものの増加傾向にある状況です。一方で、からだスッキリ運動教室、ひゃっぴい体操教室の参加数は減少傾向をたどっている状況です。

市では、様々な健康教育の機会をことあるごとに設けて行っていますが、参加者数が減少している教室・事業も見受けられる状況です。健康に興味のある方に



図 2-3-2-2：ひゃっぴい体操



図 2-3-2-2：フードデイ

は、より興味に即した内容や参加しやすい事業の開催時間など、ニーズを把握し教室内容を検討していく必要があると考えています。

それと同時に健康に興味の無い方についても市や団体などで行っているイベントの機会を逃さず、広くアピールしていく必要があると考えられ、ことあるご

【健康教育】

事業名	事業内容および教室の内容
健康教室事業	生活習慣病予防や健康づくりを目的とした教室、講座を地域や健康ひろばで実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ●お茶の間健康教室 ●フードデイ ●からだスッキリ健康運動教室 ●地域健康講座 ●その他の健康講座など
健康体操推進事業	市のオリジナル健康体操である「ひゃっぴい体操」教室の実施、体操普及のためのサポーターの育成を行っています。また、イベントにおける体操の実演も行っています。 <ul style="list-style-type: none"> ●ひゃっぴい体操教室 ●ひゃっぴい体操エクササイズ教室 ●ひゃっぴい体操サポーター養成講座及び更新講座等 ●各種イベントでの実演
教育大学連携事業	北海道教育大学岩見沢校と連携し大学のノウハウや人的資源を活用した健康づくりのための運動教室や講座を行っています。 <ul style="list-style-type: none"> ●骨盤ケア講座 ●女性のための健康力アップ講座 ●親子運動教室～ベビーバルシューレ～

【健康教育事業の参加者数】

教室名・講座名	H29年		H30年		R1年	
	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数
お茶の間健康教室	50	1,653	65	2,254	60	2,160
からだスッキリ運動教室	8	66	9	35	6	37
フードデイ	12	220	12	273	10	227
ひゃっぴい体操教室	6	128	6	210	5	72
ひゃっぴい体操サポーター養成講座等	7	42	7	32	6	30
ひゃっぴい体操イベント実演	48	3,482	25	1,787	29	3,503
骨盤ケア講座	5	40	5	42	4	46
女性のための健康力アップ講座	2	15	2	21	2	22
親子運動教室 ～ベビーバルシューレ～	3	78	3	99	2	44
その他の教室・講座等	65	1,099	62	1,342	50	1,290
計	206	6,823	196	6,095	174	7,431

とに効果的な周知を行っていく予定です。

2.3.2.3 健康相談

岩見沢市では、市民が必要な時に相談が受けられるよう保健センターに窓口を設け健康相談を随時実施しております。出向くことが難しい方に向けても電話により相談を受けることが可能です。また、健康教室等のイベントで地域に出向いた際には同時に相談の機会を設けています。健康づくり拠点である健康ひろばで行う健康チェック時にも健康チェックの結果を説明し、必要な指導を行い相談にのっています。

健康相談の参加者数は年度によって増減がありますが、一定数参加いただいている状況にあります。地域に出向く健康相談については、参加人数に変動はありませんが、窓口健康相談や電話相談は若干の数の変動はあるものの増加傾向にある状況です。コロナ禍により、電話相談等はよりニーズが高まったと考えられます。

市では、健康相談の機会をことあるごとに設けて



図 2-3-2-3：健康相談の様子

行っています。保健センターや健康ひろばに出向いて来られる方、交通機関の手段に乏しく出向くことの難しい方など様々な事情のある方がいらっしゃるため、今の相談機会を確保し、今まで実施してきた相談体制を今以上周知していく必要があると考えています。

また、時間に縛られず相談できる体制も今後、検討していくことが必要と考えています。

【健康相談】

相談種別	相談の内容
保健センターで行う健康相談	保健センターでは来所および電話でも健康相談に応じています。 ●窓口健康相談 ●栄養相談 ●電話相談
地域に出向いて行う健康相談	●町内会、団体対象の健康相談 ●お茶の間健康教室開催時に行う健康相談
健康ひろばで行う健康相談	●健康チェック時に行う健康相談
その他の健康相談	●行事、イベント開催時に行う健康相談

【健康教育事業の参加者数】

教室名・講座名	H29年	H30年	R1年
	参加人数	参加人数	参加人数
窓口健康相談	39	11	23
栄養相談	25	15	41
電話相談	84	118	182
町内会、団体対象の健康相談	131	176	157
お茶の間健康教室開催時に行う健康相談	74	176	37
健康チェック時に行う健康相談	396	278	185
その他の健康相談	2,255	2,178	2,320
計	3,004	2,952	2,945

2.3.2.4 訪問指導

訪問指導は、健康増進法に基づき、療養上の保健指導が必要であると認められる者及びその家族等に対して、保健師等の医療専門職が家庭訪問により必要な相談支援を行い、市民の心身機能の低下防止と健康の保持増進を図ることを目的としています。具体的には、特定健診やがん検診の精密検査未受診者への受診勧奨と生活習慣病予防に関する相談、特定保健指導対象者への療養方法に関する相談、医療機関の重複頻回受診者に対する健康相談や適正受診指導等、個別の相談により心身の健康に関する必要な助言指導を実施しています。また、各種健康診査の未受診者に対し訪問による受診勧奨を行い、定期的に自分自身の健康状態を把握し生活習慣病等の予防や早期発見につなげるなど、主体的に自らの心身のセルフケアができるよう支援しています。

本事業については、国保や介護、福祉部門等の庁内関係部署、医療機関や地域包括支援センター、保健所等の関係機関とも支援対象者が重複しうることから、十分な連携を図り効果的な支援が行われるよう努めるとともに、町内会や民生委員、保健推進員等の住民組織とも密な連携を図り必要時協力を得ることができるよう事業を進めていきます。

また、近年はタブレット等を活用したわかりやすい媒体による効果的な相談支援や、健診のインターネット予約を活用した効率的な受診勧奨等、相談支援業務の充実を図るよう取り組みを進めていきます。

【訪問指導数(成人)】

区分	H29年	H30年	R1年
訪問数	284人	121人	102人

2.3.3 高齢者関係

市では、高齢者の方が要介護状態となることを予防し、住み慣れた地域で健康にいきいきと暮らし続けることができるよう、運動機能や認知機能向上、栄養改善や口腔機能改善などのさまざまな介護予防事業を実施しています。

国内の人口減と少子化が進む中、高齢者人口は加速し続け、団塊の世代が75歳以上となる令和7(2025)年を経て、令和24(2042)年までは高齢化が進んでいくと予想されています。

岩見沢市の平成22(2010)年高齢化率は27.0%でしたが、令和2(2020)年には35.5%、令和7(2025)年推計では38.0%、令和27(2045)年推計では43.3%まで高齢化率が進むと予想され(第2期岩見沢市総合戦略より)、岩見沢市においても、介護予防に対する取り組みを続けていくことが必要といえます。

実施事業の概要は表1のとおりとなっており、健康教育では、フレイル予防や認知症予防など、介護予防に関する講話を保健師、管理栄養士、歯科衛生士が実施しています。

健康相談には例年多くの方が参加され、気軽な健康相談の場としてご利用いただいています。

「はつらつシニア講座」では介護予防全般について系統的に学べる一方、「お口いきいき教室」による口腔機能向上、「シニアのための筋力アップ教室」による運動器機能向上といったプログラムを実施すること

【表1 事業内容】

事業名	実施内容
①健康教育(団体からの申込)	介護予防に関する知識の普及を図るため、老人クラブ等で健康づくりに関する講話を実施
②健康相談(随時)	老人クラブや市イベント等で血圧測定及び健康づくりに関する助言を実施
③脳イキキ度チェック(週1回)	物忘れの心配がある人に個別の神経心理機能テストを実施し、保健師が脳活性化のための生活指導を実施
④脳はつらつ教室(月2回)	脳イキキ度チェックで軽度の認知機能低下が認められた人を対象に、脳活性化のための小集団指導を実施
⑤脳はつらつサロン支援(団体からの申込)	市内地域脳サロンへの活動支援及び新規脳サロン開設希望があった団体へ立ち上げのための支援を実施
⑥はつらつシニア講座(全4回・年3クール)	介護予防全般(運動、栄養、口腔機能、生活習慣等)に関する知識の普及を図るため、実技を取り入れた小集団指導を実施
⑦お口いきいき教室(全3回・年8クール)	オーラルフレイル予防のための口腔機能向上プログラムを実施
⑧シニアのための筋力アップ教室(全12回・年3クール)	ロコモ予防及びフレイルの予防のための運動器機能向上プログラムを実施
⑨認知症サポーター養成講座(団体からの申込)	認知症に関する正しい知識普及を図り、認知症の人やその家族の方を見守り可能な支援を行う「認知症サポーター」を養成するために講座を実施
⑩認知症サポーターステップアップ講座(年1クール)	主に認知症サポーター養成講座受講者を対象に、認知症に関するさらなる知識の向上と理解を深め、地域で活動できる「認知症ボランティア」の育成するために講座を実施
⑪「通いの場」情報提供	健康ポイント登録団体のうち、承諾が得られた団体の活動を「通いの場」として市民等に周知を行う

【表2 事業実施状況】

事業名	H29年		H30年		R1年	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
①健康教育	157	3,202	161	3,497	147	2,946
②健康相談	260	3,249	361	3,420	325	3,074
③脳イキキ度チェック	56	109	74	74	61	61
④脳はつらつ教室	24	153	24	77	22	71
⑤脳はつらつサロン支援	12	289	6	138	18	353
⑥はつらつシニア講座	12	128	12	117	8	53
⑦お口いきいき教室	24	88	23	77	19	75
⑧シニアのための筋力アップ教室	72	525	71	376	51	150
⑨認知症サポーター養成講座	22	638	23	668	15	408
		延 8,877		9,545		9,653
⑩認知症サポーターステップアップ講座	4	43	1	25	-	-
⑪「通いの場」情報提供		-		141		149

で、ピンポイントかつ集中的に介護予防実践について学ぶことができます。

認知症予防事業については、「脳イキキ度チェック」によるスクリーニング及び認知症予防につながる生活指導を含めた個別相談を実施しています。

「脳イキキ度チェック」におけるスクリーニング該当者(軽度認知障害)のフォローの場として「脳はつらつ教室」を実施し、認知症予防につながる小集団指導を実施しています。

なお「脳はつらつ教室」の参加者には、地域でも認知症予防に取り組むことができるよう、町内会等の地域が実施している「脳はつらつサロン」を紹介しています。「脳はつらつサロン支援」として、保健師による健康教育や脳はつらつサロン参加者への集団かなひろいテストを実施する等の活動支援を行っています。

さらに「認知症サポーター養成講座」「認知症サポーターステップアップ講座」を実施し、地域全体で認知症の理解を深める取組も実施しています。

このように、認知症に関する相談やスクリーニング、認知症予防教室の開催、地域での認知症予防活動を実施することで、一連の流れとして認知症予防事業に取り組んでいます。

「通いの場」については、国の基準をもとに市が定めた基準(月1回以上活動・新規受入可・公表可)で活動し、一覧表掲載への承諾があった「健康ポイント登録団体」について「通いの場一覧表」を作成し、市ホームページ掲載や関係機関へ配布等を行い、地域で気軽に介護予防に取り組める場の周知を行っています。

なお各事業のほとんどが健康ポイント対象事業となっており、健康寿命延伸事業とも連携しながら事業

を実施しています。

2.3.4 いわみざわ健康まつり

いわみざわ健康まつりは、多くの市民に健康づくりへの関心を高めるもらう場であるとともに、市や関係団体の健康施策のPRに有意義な場でもあり、大変重要なイベントとして位置付けています。

昭和61年に初めて開催し、平成29年度からは、イベントホール赤れんがを会場に令和元年度(第34回)

まで毎年行われております。

医師会、歯科医師会や薬剤師会による「相談コーナー」をはじめ、「体力診断」や「体力づくりコーナー」のほか、「ひゃっぴい体操パフォーマンス」や「講演会」等のステージイベントなど、毎年内容の充実を図っており、多くの方々が参加しています。

今後も、多くの市民が楽しみながら健康づくりを体験することで、セルフヘルスケアの推進に繋がるよう、関係団体と連携して、健康まつりを開催していきたいと考えております。

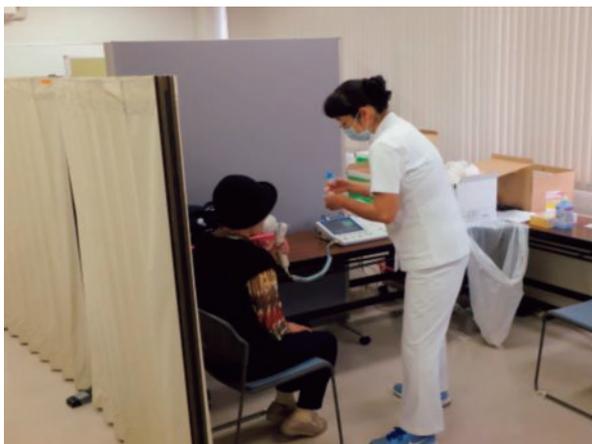
図 2-3-4-1



H23(第26回)歯とお口の相談コーナー



H29(第32回)健康チェックコーナー



H30(第33回)医師の相談コーナー



R1(第34回)ひゃっぴい体操パフォーマンス(ファイターズガールとのコラボ)

【参加者数】

	H29(第32回)	H30(第33回)	R1(第34回)
参加者数	1,605人	1,503人	1,575人
開催日	10月1日(日)	9月30日(日)	9月29日(日)
会場	イベントホール赤れんが		



岩見沢市健康ポイント対象事業
2ポイント

人もまちも
元気で健康

第34回 いわみざわ

健康まつり

ファイターズガール
とのコラボ企画

とき 令和元年 9月29日 日

開場 9:45 開演 **オープニングセレモニー** 10:00
終了 15:30 各コーナースタート 10:30

ところ イベントホール 赤れんが
有明町南1-14 (駅東)



来場者
全員に粗品
プレゼント!

アンケートに
答えて
健康グッズを
もらおう

**入場
無料**

オープニングセレモニー 10:00~
子どもたちのダンスパフォーマンス

岩見沢市オリジナル健康体操 10:30~10:45
11:40~12:00
ひゃっぴい体操パフォーマンス

NEW 楽しく手と手で歌ってみよう! 10:45~10:55
手話で遊ぼう!

笑い深呼吸を組み合わせた健康体操 11:00~11:30
笑いヨガ 講師:松川 敦子氏(笑いヨガクラブ和/ハの会代表)

歩く達人になるう! 12:10~12:40
講演会「歩くためのトレーニング」 講師:山田 泰子氏
(健康運動指導士)

NEW ぐっすり眠るためのヒントを得よう! 12:50~13:05
ミニ講演会「不眠の原因と対策」 講師:福多 洋氏
(岩見沢こころクリニック)

元気な体はお口から 13:15~14:05
・ミニ講演会「口腔がんについて」 講師:長栄 洋氏
(つぎたて歯科)
・口腔体操 (歯科衛生士会)
・8020コンクール・図画ポスターコンクール表彰式

理学療法士による 14:15~14:45
災害時の健康被害とエコノミッククラス症候群の予防

スタンプラリーに参加して豪華景品を当てよう! 15:00~
抽選会 ※会場内にいる方を対象と
させていただきます **1等**
ダイソン
ハンディ
クリーナー

相談コーナー

専門スタッフがアドバイス

- ・医師の相談
- ・歯とお口の相談
- ・葉の相談
- ・整骨の相談
- ・介護の相談



健診予約受付・普及 コーナー

健診の予約ができます

- ・がん検診・健康診査予約
- ・ピロリ菌検査普及

岩見沢市 × 北大COIコーナー

COIによる健康づくり

- ・COIの紹介
 - ・体のバランス測定 など
- ※COIとは、北大を中心とした
健康づくりプロジェクト

健康チェック コーナー

自分の健康がよくわかる

- ・血管年齢測定
- ・骨健康度測定
など



食生活改善 コーナー

おいしい料理で栄養管理

- ・栄養相談
- ・野菜計量チャレンジ
- ・試食・試飲



(管理栄養士が教える
健康料理・試食、
ヤクルトの試飲)

運動で健康づくり

楽しみながら体を動かします

- 屋外
- ・ルディック・ウォーキング講習会
11:00~11:40 / 11:50~12:30
13:20~14:00 / 14:10~14:50
- 2F
体育館
- ・ウォーキング測定(先着30人) 10:30~11:30
 - ・気功体操 11:10~11:40
 - ・生命の貯蓄体操 11:50~12:20
 - ・バルシューレ体験(各回先着10人程度)
(ドイツ発祥の子どものボール教室) **NEW**
 - 年中・短大クラス対戦 ■小中学生2年生クラス対戦
・10:30~11:00 11:30~12:00
・13:00~13:30 14:00~14:30
 - ・ふまねっと体験 13:20~14:00
(マスを楽しく歩いて介護・認知症予防)
 - ・極真空手演武 **NEW** 14:00~14:50

その他のコーナー

- ・地場産食材・野菜のPR・販売コーナー
- ・フードコーナー
- ・AED・心肺蘇生法体験
- ・応急手当体験コーナー(日赤奉仕団)
- ・歯っぴースマイルコーナー
- ・子ども調剤体験
- ・骨量測定
- ・緑陵高校生の研究コーナー
- ・理学療法士のコーナー
- ・手話にチャレンジコーナー **NEW**
- ・自己採血コーナー(先着100人)
- ・肝炎検査普及コーナー
- ・エキノコックス症検査



- 主催 岩見沢市/岩見沢市健康づくり推進協議会
- 共催 健康と福祉を高める市民会議/北海道健康づくり財団
北海道国民健康保険団体連合会
- 後援 岩見沢保健所、岩見沢市医師会、岩見沢歯科医師会、北海道薬剤師会南空支店、北海道柔道整復師会岩見沢ブロック、北海道理学療法士会南空支店、
岩見沢市社会福祉協議会、北海道薬物乱用防止指導員南空知地区協議会、北海道赤十字血液センター、岩見沢市町会連合会、岩見沢市農村建設協議会、
岩見沢市老人クラブ連合会、岩見沢市保健推進会、岩見沢市献血推進協議会、岩見沢地区消防事務組合、岩見沢ライオンズクラブ、
岩見沢中央ライオンズクラブ、岩見沢グリーンライオンズクラブ、岩見沢メーブルライオンズクラブ、岩見沢はまなすライオンズクラブ、北海道対がん協会、
岩見沢市PTA連合会、北海道教育大学岩見沢校、北海道大学COI
- 協力 岩見沢市医師会附属看護高等専門学校、岩見沢ヤクルト販売所、気功体操サークル、生命の貯蓄体操サークル、在宅介護ボランティア輪っこの会、
上志文ふれあいの郷、/パティスリー空香、全国B型肝炎訴訟北海道原告団、共同ワークショップこんじん、岩見沢市生活サポートセンターりんく、
JALいのみざわ、空知の鶴、日赤岩見沢地区奉仕団連絡協議会、豆くらびと岩見沢、岩見沢市ルディックウォーキング同好会、笑いヨガクラブ和/ハの会、
ふまねっと岩見沢 [R]、ファンキータンズミュージック、岩見沢ろくあ協会、岩見沢手話の会、手話サークル「エプロン」、ワーク坊主、@SLD

※内容は、一部変更となる場合があります。
※駐車場の台数(約100台)に限りがありますので、乗り合い、
又は公共交通機関をご利用ください。

2.3.5 健康ポイント

健康ポイント事業は、健康寿命の延伸を目的に、市民の健康づくりを応援し、楽しみながら健康づくりができるよう、平成 26 年度から開始した事業です。

がん検診や人間ドックの受診をはじめ、市が実施する健康づくり事業への参加のほか、団体登録されているサークルや地域の活動を行うことでポイントが貯まり、一定ポイント貯まると交換特典があります。

参加者数は平成 26 年度末で 3,131 人、平成 27 年度末で 4,144 人となっており、平成 28 年 6 月より対象年齢を 30 歳から 18 歳に引下げし、ポイント交換特典

を市の施設利用券から 1,000 円の商品券に見直したところ、参加者は、平成 28 年度末で 8,928 人、平成 29 年度末で 12,742 人、平成 30 年度末で 14,924 人、令和元年度末で 16,678 人と大幅に増加しています。

また、健康ポイント交換特典については、従来の市の施設利用券の交換者数は、平成 26 年度で 6 人(14 枚)、平成 27 年度で 22 人(65 枚)、平成 28 年度で 25 人(79 枚)でしたが、平成 28 年 6 月に施設利用券を商品券に見直したところ、商品券の交換枚数数は平成 28 年度で 382 人(421 枚)、平成 29 年度で 1,534 人(2,737 枚)、平成 30 年度で 2,388 人(4,534 枚)、令和元年度で 2,717 人(5,175 枚)と参加者数とともに大幅

【健康ポイント対象事業】

区分	対象事業
10 ポイント 受けてポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定健診+がん検診 ● 胃がん+肺がん+大腸がん検診等の同日複数種類のがん検診 ● 人間ドック(特定健診+肺がん検診)など ※同日に 2 種類以上の健診を受診すると 10 ポイント
5 ポイント 受けてポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 脳ドックのみ ● 乳幼児健診 ● 特定保健指導 ● 家族健康手帳アプリのインストール など
2 ポイント 行ってポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が実施する健康まつりや各種健康教室 ● 健康相談 ● 母親学級・ペア学級 ● おしゃべりルーム(ばぶばぶ、とことこ) ● ベビーマッサージ講習(いわみざわ子育て支援センター) ● 献血への参加 【健康ひろばで実施】 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康チェックの日(毎週火曜日) ● シニアのげんき体操教室(毎週水曜日) ● 北大 COI の日(毎週木曜日) ● フードデイ(月 1 回) ● クチトレフォローアップレッスン
1 ポイント ふれあいポイント ※団体登録が必要	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会の行事やサロン ● 企業の健康づくりへの取組み ● 健康に関するサークル 例：町内会で行うラジオ体操やパークゴルフ、卓球サークルなど
1 ポイント チャレンジポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康目標の宣言(健康の保持、増進に向けたもの) ● 設定した健康目標の達成(達成状況に応じて)

健康ポイント参加人数・ポイント交換枚数



【登録団体数】

年度	団体数
H26 年度末	30
H27 年度末	79
H28 年度末	289
H29 年度末	406
H30 年度末	491
R 1 年度末	560

に増加しています。

登録団体数は、平成 26 年度末で 30 団体、平成 27 年度末で 79 団体、事業の見直しをした平成 28 年度末では 289 団体と急増し、平成 29 年度末で 406 団体、平成 30 年度末で 491 団体、令和元年度末で 560 団体と参加者数、商品券交換者数と同様に毎年増加しています。

市では各種がん検診の自己負担金を道内の都市ではトップレベルまで引下げし、健診を受けやすくしたほか、市民の健康づくりの拠点としてオープンした「健康ひろば」で実施する、健康チェックの日、北大 COI の日、フードデイなど楽しみながら体験が出来る健康づくりの事業の参加も健康ポイントの対象としており、健康ポイント事業の参加者や商品券交換者が年々伸びている事は、これらの事業などに参加するきっかけや、継続して健康づくりに積極的に取り組む市

民の方が年々増えているものと受け止めています。さらには、健康ポイントの登録団体が地域で行っている健康づくり活動が住民主体の通いの場として、介護予防につながるものと期待をしています。

今後は、健康ポイント事業への参加がどのような効果をもたらしているかを検証するため、健康ポイントに参加している方としていない方で、健診の結果や健康チェックデータの比較をするなど、健康づくりの効果を測定し、その結果を今後の健康づくり施策へ反映させていきたいと考えています。

2.3.6 いわみざわ健康ひろば

いわみざわ健康ひろばは、市民の健康を「まもる」「つくる」「つなぐ」をテーマに、健康づくりの拠点として平成 29 年 4 月にオープンしました。

健康ひろばコンセプト



健康ひろばでは、特定健康診査やがん検診などの各種健診に加え、毎週火曜日に健康チェックと保健師・管理栄養士による健康相談を行う「健康チェックの日」のほか、毎週木曜日には、北海道大学 COI と連携し、乳幼児の健康測定、カラオケ機器を使った介護予防体操など、子どもから高齢者までを対象にしたイベントを実施する「北大 COI の日」、月 1 回は管理栄養士による健康な食事の試食やレシピ紹介する「フードデイ」、さらに令和 2 年度からは、毎週水曜日に 65 歳以上の高齢者を対象に、カラオケ機器を使った介護予防体操に保健師等のミニ講話を組み合わせた「シニアのげんき体操教室」を実施するなど、市民一人ひとりの健康づくりを応援するための事業を実施しております。

また、老人クラブ連合会が自ら企画した新たな取り組みである、健康ひろばを活用した「高齢者自らが主体的に取り組む健康づくり」と、健康ひろば周辺での買い物や食事などを行う「まちなか回遊」などを組み合わせ、健康づくりと社会参加をつなげる『高齢者の健康をまもる・つくる・つなぐ事業』など、団体が実



高齢者の健康をまもる・つくる・つなぐ事業

施する事業もあります。

健康ひろばを利用された方は延人数で、平成 29 年度は 12,572 人、平成 30 年度は 14,089 人、令和元年度は 15,910 人と年々増加し、多くの方にご利用いただいています。

今後も、市民が気軽に健康チェックや健康相談などができ、生活習慣改善のきっかけとなるよう、健康づくりの拠点として、様々な取り組みを進めていきたいと考えています。

【健康ひろば事業概要】

実施日	事業名	事業概要
毎日	健康測定	血圧、体組成、血管年齢、骨健康度、肌年齢
	アール・ブリュット展示	主に障がい者の芸術作品を常設展示
	コミュニティスペース	バス待ち、昼食等に利用可能
毎週火曜日	健康チェックの日	健康測定及び保健師、管理栄養士、歯科衛生士による健康相談
毎週水曜日	シニアのための介護予防体操教室	音楽健康指導士による介護予防体操＋保健師・管理栄養士・歯科衛生士によるミニ講話等
毎週木曜日	北大 COI の日	乳幼児の健康測定、カラオケ機器を使った介護予防体操等
月 1 回	フードデイ	地元食材を使ったアイデア離乳食 健康な食事の試食やレシピ紹介など
随時	各種保健事業	すこやか健診(成人健診)、レディース健診 お口いきいき教室、ひゃっぴい体操教室など
	各種団体、会議等	健康、福祉関連団体の事業、会議など

【健康ひろば利用実績】

事業名	利用者人数			
	H29	H30	R1	
オープニングセレモニー(4/1)	400 人	—	—	
健康測定(健康チェックの日を除く)	1,592 人	1,169 人	851 人	
健康チェックの日	1,356 人	1,211 人	872 人	
北大 COI の日	758 人	1,758 人	3,278 人	
フードデイ	278 人	314 人	253 人	
コミュニティスペース利用	1,093 人	1,077 人	910 人	
各種保健事業	健診	2,787 人	2,695 人	2,873 人
	その他保健事業	2,010 人	2,664 人	2,991 人
各種団体・会議等	2,223 人	2,989 人	3,841 人	
健康相談のみ	75 人	212 人	41 人	
合計	12,572 人	14,089 人	15,910 人	

2.3.7 こども・子育てひろば「えみふる」

こども・子育てひろば「えみふる」は、子どもと子育てを応援する、子育て支援の拠点として、平成28年3月にオープンしました。

2.3.8 北海道大学 COI

COI(センター・オブ・イノベーション)とは、文部科学省・科学技術振興機構が実施しているプログラム

で、10年後、どのように社会が変わるべきか、人が変わるべきか、その目指すべき社会像を見据えたビジョン主導型の研究開発を支援するものです。

COIは、10年後の日本が目指すべき姿として定めた3つのビジョンのうち、北海道大学COIは、少子高齢化先進国としての持続性確保をビジョンとしたプロジェクトです。

北大COIは、「プレママから、子育て、高齢者の健康を守り、病後も美味しい食と、楽しい運動で笑顔のあふれる社会をめざす」をテーマに、少子化対策や食と運動を融合したプログラムの提供などを目標に掲

えみふるの概要

相談・支援機関	子育て総合支援センター	親子が交流できる各種事業を実施するほか、子育て支援の拠点として、子育てに関する情報提供、電話やファックス、来所による相談窓口として子育てを支援する施設です。
	常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」	3歳以下のお子さんとお母さん、お父さんが集まって、遊んだり、おしゃべりしたり楽しみながら子育てできる機会を提供します。
	幼児ことばの教室	小学校入学前のお子さんの、ことばの育ちを支援します。
	保健センター	市民の皆さんの健康づくりを支えるため、健康教育や健康相談のほか、妊娠している方や子どものための健康管理を行います。 母子手帳の交付、乳幼児健診や子育て相談、母親学級・ペア学級などの事業を実施しています。
あそびの広場	1年を通して、天候を気にせずに、いつでも遊べる施設です。 美しいもの、未知なものに、目を見張る感性「センター・オブ・ワンダー」を育むことをテーマにした、幼児から小学生までが楽しめる全天候型のプレイグラウンドです。 走ったり、登ったり、飛び上がったり！身体を使って遊ぶ「はらっぱひろば」と、絵本や積み木遊びが楽しめる「ごろごろひろば」があります。	

図 2-3-7-1



あそびの広場

【えみふる利用実績】

区分	利用者人数		
	H29	H30	R1
子育て総合支援センター	2,432 人	2,140 人	1,963 人
常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」	14,880 人	14,357 人	11,457 人
幼児ことばの教室	1,954 人	2,012 人	1,595 人
保健センター	8,664 人	8,003 人	7,046 人
あそびの広場	56,528 人	66,492 人	55,303 人
合計	84,458 人	93,004 人	77,364 人

げ、北海道大学を中心に、筑波大学、北里大学、九州大学のほか、日立製作所、森永乳業、ツルハなど、30社を超える企業との連携のもと、健康づくりプロジェクトを進めています。

北大COIの事業については、25～26年度の2年間はトライアル期間で、27年からは正式なプロジェクトとして位置づけられ、令和3年度までの約10年間の中・長期的な事業です。

北大COIは、4つの研究テーマと4つのミッションがあります。

1つ目が自分の健康度を図る評価の開発と標準化を目指す「健康ものさし」

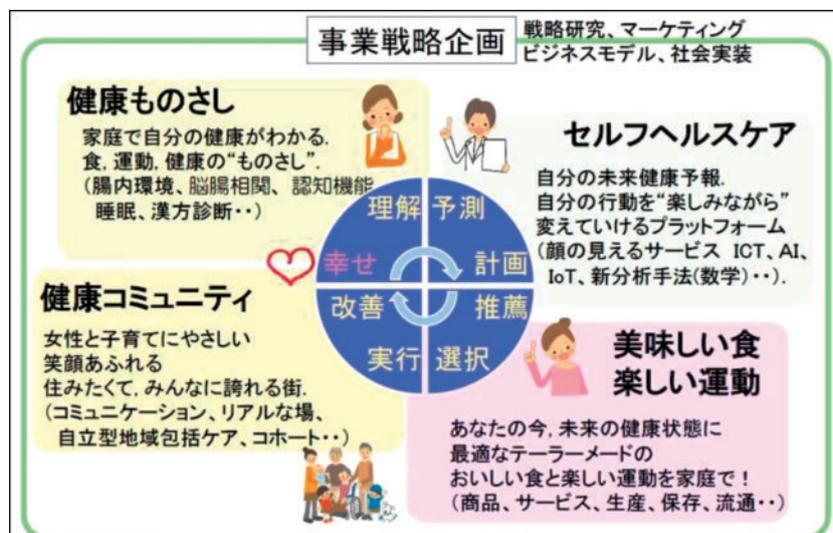
2つ目が自分の健康状態がわかり、行動を変えていける「セルフヘルスケアプラットフォーム」の仕組みの構築を目指す「セルフヘルスケア」

3つ目が、個人の健康状態に最適な食品や運動プログラムの開発を目指す「美味しい食・楽しい運動」

4つ目が、産学官金が連携し、市民の健康を地域で支えていくコミュニティの構築を目指す「健康コミュニティ」

この4つ目の研究テーマとミッションのうち健康コミュニティの推進に向けた取組みについて、岩見沢市をフィールドとして主に実施しています。

まず、平成27年11月から、子育て支援として、お



母さん方に読んでいただけるようなフリーマガジンを2か月に1回を基本に発行しました。

平成28年1月からは、北海道大学大学院保健科学研究院や民間のツルハドラッグとの連携のもと、自己採血による簡易血液検査や健康チェックにより、個人の健康状態を知ってもらうための「お手軽健康チェック」という取組みを平成28年から実施しております。

平成28年4月からは、地域で健康づくりを推進する保健推進員を市内10ブロックに分け、保健推進員の企画による地域健康講座を北大COIと連携して開催しております。

平成28年5月からは、安心して産み育てる環境形成を目的に、妊婦や育児中の父母と保健師などをつなぐコミュニケーションツールである「家族健康手帳アプリ」を市のサービスとして無償で提供開始しました。家族での子育ての情報の共有や、市の健康情報の配信、保健師への相談機能に加え、予防接種のスケジュール管理機能があり、令和元年度末現在で、647人の方がインストールしています。

家族健康手帳アプリでは、いつでも相談ができますので(保健師からの返信は平日の日中になります)、日中忙しいお母さんは、育児が一段落ついた時など、気軽に相談してもらいたいと思っています。

平成29年4月にオープンしました健康ひろばでは、毎週木曜日を北大COIの日として、子どもの身長測定やカラオケ機器を使った介護予防体操、北大等の先生を講師とした健康講座など、子どもから高齢者を対象として様々なイベントを実施しております。

平成29年6月からは、子どもの成長や発達に及ぼすさまざまな要因を明らかにするほか、出生率の向上や低出生体重児の減少に加え、これから生まれ育っていく子どもによりよい環境を与えることなどを目的に、妊娠中の生活環境をはじめ、生まれた子の生活習慣や健康状態などを継続的に把握する「母子健康調査」を開始しており、実績としては、令和元年度現在で166人の方にご協力いただいております。

平成30年度には、市民の健康状態や生活状況などを把握するとともに、市が実施している事業の効果を



H28



H29



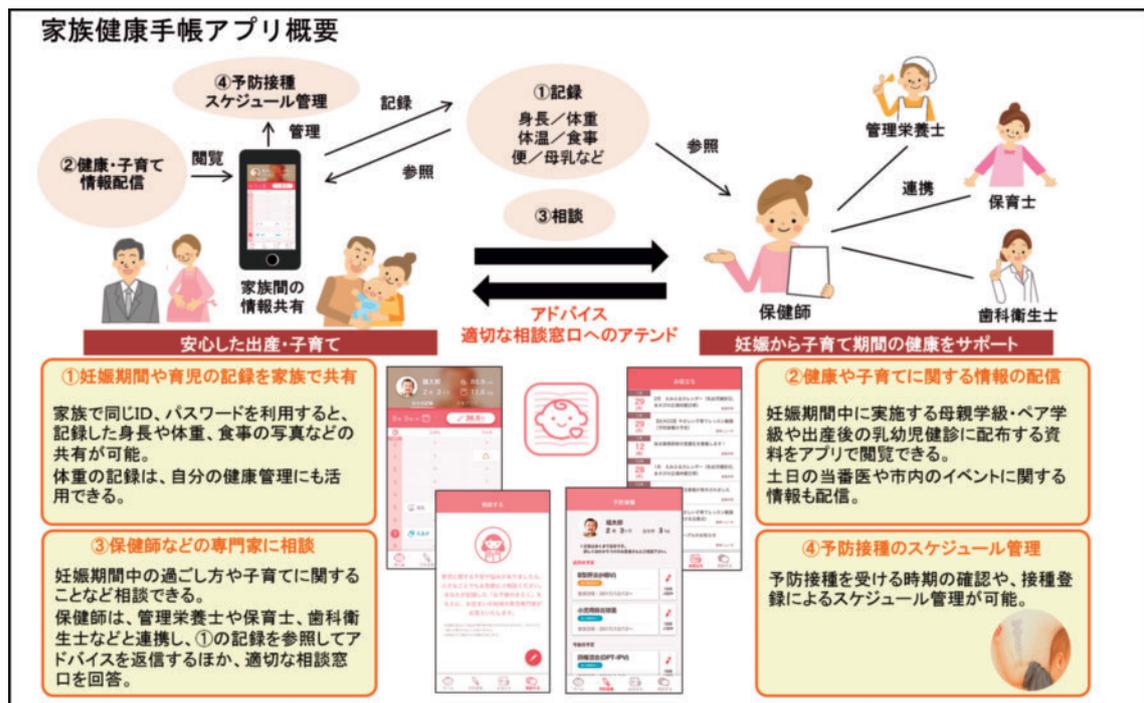
H30



R1

【地域健康講座 H30実績】

実施団体	内容	開催日時	参加人数	健康チェック	場所
保健推進員企画による健康講座					
緑中学校区	タイトル：転倒しない体の仕組みと体づくり 講師：萬井 太規(助教・理学療法士)	10月1日(月) 14:30~15:30	31名	重心動揺計	健康ひろば
光陵中学校区A	タイトル：「ずっと健康なままで ～毎日できる簡単なび体操～」 講師：片岡 義明氏(理学療法士)	10月3日(水) 13:30~14:30	75名	しない	健康ひろば
明成中学校区	タイトル：120歳までできる!?ワクワク・ドキドキの 楽しい健康づくり 講師：大藏 倫博准教授(筑波大学 体育系)	10月4日(木) 13:30~15:00	55名	しない	であえーる ホール
幌向地域 ふれあい 推進協議会	タイトル：体力チェックと健康な体づくり 講師：寒川 美奈准教授(理学療法士)	10月10日(水) 13:30~14:30	89名	・zaRitz(2台) ・内転外転筋 力測定(1台)	ほっとかん (幌向南1-1)
清園中学校区	タイトル：ゆがみチェックと手ぬぐい体操 講師：寒川 美奈准教授(理学療法士)	10月15日(月) 14:00~15:00	103名		南コミュニ ティセンター
東光中学校区	タイトル：転倒しない体の仕組みと体づくり ～体バランスを強化しよう 講師：萬井 太規(助教・理学療法士)	10月31日(水) 13:30~15:00	79名	しない	健康ひろば
栗沢中学校区	タイトル：「冬に向けての健康づくり」 ～冬場にオススメの運動の紹介～ 講師：片岡 義明氏(理学療法士)	11月9日(金) 9:30~10:30	44名	しない	栗沢保健 センター
美園町内会	健康測定会(測定+結果の説明) 講師：鈴木 哲平氏	10月30日(火) 13:00~15:00	26名	指タップ 下肢筋力測定	美園第2 町内会館
その他					
老連地区協 (高齢者バス 事業)	タイトル：いきいき生活が認知症を予防する 講師：高島 理沙助教	9月13日(木)	65名	しない	健康ひろば
市	タイトル：住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで 講師：青柳 道子講師	2月15日(金) 14:00~15:30	90名	しない	健康ひろば
累計	講座：10回 参加人数：657人				





検証し、今後の健康施策へ反映させることを目的に、市民1万人を対象にした「健康と生活に関する意識調査」を実施し、3,000人を超える多くの方からご回答をいただきました。北大COIと連携し、集計・分析を行い、今後の健康施策に反映させていきたいと考えております。

また、九州大学が民間企業と連携して進めていた「クチトレ」という、口と口の周りの筋力を鍛える専用器具でトレーニングすると、睡眠の質や姿勢の改善効果が確認されており、岩見沢市においても「クチトレ」の効果検証を進めています。具体的には、小・中学生、高齢者を対象にしたモニター調査を実施しています。

高齢者のモニター調査では、「げんき発見ドック」といって、従来の健診とは異なり、体の力や口の力など、自分のげんきを発見するためのポジティブな健康保持・増進とフレイル予防・改善に向けた取組みとして、北大COIと連携して実施しており、クチトレの使用によって、オーラルフレイルの予防・改善に効果

があることもわかってきています。

今後も、北大COIと連携したあらゆる事業を実施するとともに周知を図りながら、健康づくりを進めていきたいと考えています。

2.3.9 健康経営

健康経営都市を推進するために、産学官金の連携のもと、「新しい地域・生活・産業」をつくるため、生活・健康づくりのサービスを提供するための基盤（プラットフォーム）構築をはじめ、健康予報システムのサービス化、「農・食・健康」の連動による産業の創出に向けた取組みを進めています。

産学官金の連携においては、平成29年5月31日付けで、国立大学法人北海道大学大学院保健科学研究所と「健康づくり等に関する連携協定」締結したのをはじめ、平成30年4月1日付けで、北海道大学COI、空知信用金庫、全国健康保険協会北海道支部と「健康づくりの推進に向けた包括的相互連携に関する協定」



市・北海道大学大学院保健科学研究所
「健康づくり等に関する連携協定」締結



協会けんぽ・北大 COI・市・空知信用金庫
「健康づくりの推進に向けた包括的相互連携に関する協定」締結

を締結し、健診の受診率向上や健康関連データの分析などで相互に連携・協力し、それぞれの強みを生かして市民や企業の健康づくりを進めるなど、健康経営都市の推進に向けた体制を構築しています。

2.4 成果

岩見沢市が健康経営都市宣言の認定を受けた平成28年6月の前後の主な健康づくりに関する取組みについては、以下の表のとおりです。

【健康づくりに関する取組み】

年度	年月日	取組み
H25	H25.4～	北海道大学 COI「食と健康の達人」拠点に参画 (H25～H32 ※ H25～H26 はトライアル) 北海道大学、筑波大学、北里大学、30社以上の民間企業でつくる健康づくりプロジェクト、自治体では岩見沢市が唯一参画 不妊治療費助成開始
H26	H26.4～ H26.6～	国保のデータヘルス事業開始 岩見沢市健康ポイント事業開始
H27	H27.11～ H28.1	フリーマガジン「Live」発行(北大 COI)2か月に1回発行 岩見沢市総合戦略 「市民ひとりひとりが健康で生きがいを持って暮らせる健康経営を実践するまち」「岩見沢市の「農」と「食」を世界の消費者に届ける活力ある産業を育むまち」を重点施策とするなど、健康経営の概念を用いた地方創生として「健康経営都市」の構築を目指した取組みを開始
	H28.1～ H28.3～	お手軽健康チェック開始 市内ドラッグストア、地域ヘルスセンター 子ども・子育てひろば「えみふる」オープン(保健センター移転)
H28	H28.4～ H28.4～ H28.5.25 H28.6.12 H28.6～ H28.6.27	がん検診の料金を道内市のトップレベルに引下げ 国保の特定健康診査、がん検診料金の無料化 国保の脳ドックの受診枠を拡大(100名⇒110名) 岩見沢保健推進員を市内10ブロックに分け、地域健康講座を開始 子育て支援サービス「家族健康手帳アプリ」サービス開始 岩見沢市健康ポイント事業見直し (30歳以上⇒18歳以上、施設利用券⇒商品券(1000円)) 中学生を対象とした胃がん予防のためのピロリ菌検査・除菌事業開始 「健康経営都市宣言」認定(全国の自治体初) 於：特定非営利活動法人健康経営研究会

健康経営の視点をプラスし、これまで多くの新たな取組みを実施してきました。

健康ポイントの参加者や健康ひろばの利用者数が年々増えていることを始め、北大 COI と連携した事業においても多くの市民が参加しており、セルフヘルスケアの推進に繋がっているものと考えています。

今後、市民一人ひとりが健康になることによって、街全体が活性化するという健康経営の考え方のもと、市民が元気で健康な地域社会の形成に向けた取組みを進めていきます。

年度	年月日	取組み	
H28	H28.9～	被保護者に対する健康診断受診勧奨開始	
	H28.10～	医療費助成拡大(入院医療費助成対象 小学生まで⇒中学生まで)	
	H28.11.1	入院中も食べられる美味しいデザートの開発(北大 COI、北大病院、赤いりぼん)	
	H29.3	岩見沢市地域福祉計画(第1期)策定	
	H29.3	岩見沢市地域福祉計画「人もまちも元気で健康に」 ～だれもが、助け合い、支えながら、明るく元気に暮らせるまちを実現します～	
H29	H29.4.1	「いわみざわ健康ひろば」オープン	
	H29.4～	後期高齢者人間ドックの受診者枠を拡大(200名⇒250名)	
	H29.4～	各種健康診査の全庁的な周知・勧奨の取組開始	
	H29.5.12	健康情報ポータルサイト運用開始	
	H29.5.31	国立大学法人北海道大学大学院保健科学研究院と「健康づくり等に関する連携協定」締結	
	H29.6～	母子健康調査開始(岩見沢レディースクリニック) 低体重出生児の減少、出生率の向上など	
	H29.6～	生活保護受給者生活習慣病重症化予防事業開始	
	H29.7～	40歳以上のピロリ菌検査開始(対がん協会)	
	H29.10～	医療費助成拡大(通院医療費助成対象 小3まで⇒小6まで)	
	H29.12～	健康と福祉を高める市民会議からの提言(H29.12.5)に基づく救急救命講習やAEDの普及啓発(AEDマップ・アプリへの登録促進、パンフレットの作成など)	
	H29.12～	クチトレ開始(市内乳幼児とその親、市内介護施設)	
	H30.3.16	地域事業体 合同会社「エミプラスラボ」設立	
	H30	H30.4.1	「健康づくりの推進に向けた包括的相互連携に関する協定」締結 市、北海道大学 COI、空知信用金庫、全国健康保険協会北海道支部
H30.4.1		岩見沢市国民健康保険第2期データヘルス計画・第3期特定健康診査等実施計画の策定	
H30.4～		健康予報システム運用開始 高齢者の健康を「まもる・つくる・つなぐ」事業開始 第6期岩見沢市総合計画(H30.3策定) 将来の都市像 「人と緑とまちがつながり ともに育み未来をつくる 健康経営都市」 後期高齢者人間ドックの受診者枠拡大(250名⇒300名)	
H30.5.7		健康経営都市推進庁内連携会議(庁議)の設置	
H30.6.1		健康経営都市推進庁内連絡会議の開催 →クチトレプロジェクト、職員健康づくりプロジェクトの取組み	
H30.6.14		クチトレ事業の拡充(市職員のクチトレ購入費助成)	
H30.8～		健診のWEB予約開始	
H30.9.8		健康と生活に関する意識調査(市民1万人に調査) ※1万人とは別に、市職員も全員調査	
H30.12		「通いの場」リスト作成(141か所、関係機関・市HP掲載)	
R1		R1.4～	クチトレ事業の拡充(市内幼児、小・中学生、高齢者) IOTヘルスケアアプリを活用した高血圧疾患の重症化予防事業開始(北大COI) 「認知症カフェ運営補助金交付事業」開始
		R1.7.12	日本初「げんき発見ドック」開始 市内高齢者72名 7/12、22、29、8/5
	R2.3.1	母子健康調査(市立総合病院開始)	

